

## 【海洋生物講演会】

5月22日(木)の6時間目に東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物研究センター助教 武田 哲 先生による浅虫の海岸や生物に関する講演会を行った。

### 演題「海岸の環境と浅虫の海洋生物」

#### 〈講演内容〉

##### ① 海岸の様子

海岸は一日に二回干潮と満潮を繰り返している。そして、干潮の時の水面より低い部分を潮下帯、満潮の時の水面より高い部分を潮上帯、潮下帯と潮上帯の間の部分を潮間帯という。この3つの場所ごとに環境は大きく異なっているため海岸には色々な生物が住んでいる。

また、海岸の様子について下の表にまとめた。

	潮上帯	潮間帯	潮下帯
浸水時間	0時間	6時間ずつ	24時間
乾燥	長く厳しい	← →	短く穏やか
塩分濃度変化	大きい	← →	穏やか
温度変化	大きい	← →	穏やか

##### ② 浅虫の生物

浅虫の生物の一部を生息する場所ごとに紹介する。

###### (1) 潮上帯

- ・タマキビ →逆立ちしていることもある。どのように逆立ちしているのかなぜ逆立ちするのか調べてみると面白いかもしれない。
- ・イワガニ →夜行性。岩の隙間によく隠れている。

###### (2) 潮間帯

- ・ムラサキインコガイ、ムラサキイガイ →岩に足糸をつけて固定している。足糸は、数分間で作りだすことができる。

###### (3) 潮下帯

- ・エゾヒトデ →腕を切られても数か月で再生する。



#### 〈感想〉

- ・浅虫にいる生物には面白い特徴があることがわかったので、学術研究を通じてより深く知りたい。
- ・今回の講演で学んだことを参考に、合同巡検に向けて仮説や計画を立てていきたいと思う。より充実したものになりたい。

## 【考古学講演会】

6月6日(木)の6時間目に宮城県教育庁文化財課技術補佐の佐藤 憲幸さんによる東北の歴史に関する講演会を行った。

### 演題 「縄文時代の東北地方～三内丸山遺跡を中心に～」 〈講演内容とその様子〉

#### ① いつから縄文時代？

何年前から縄文時代が始まったのかはっきりしない状況が続いている。縄文土器等が使われていた時期と気候が温暖になり始めた時期のどちらを縄文時代とするのか決めるのが難しいようだ。土器の年代を特定する際、方法によって異なる結果が出ており、どの結果が正しいのか未だに分かっていない。高校生の教科書を見てみるとやはり古いものと新しいものとで違いがみられる。佐藤 憲幸さんは、「歴史は常に変化することを知っていてほしい」と語っていた。



#### ② 縄文時代の特徴及び縄文時代後の東北

縄文時代には竪穴住居、石器、弓矢、縄文土器があった。縄文土器は人類が初めて化学反応による技術革新をして生まれたものとなっている。また、場所によって形も異なっているようだ。

縄文時代が終わった後、東北では一時期稲作を行っていたが、気候の寒冷化もあり縄文時代の生活に戻っていった。この変化は教科書ではわからない。



佐藤 憲幸さんは科学の目で様々なものを見てほしいと語っていた。この言葉を頭に入れて合同巡検に臨んでほしいと思う。

〈感想〉

- ・技術が進歩したことによって歴史に新たな発見が生まれ教科書が修正されているのが興味深かった。
- ・教科書ではわからない事実を知ることができるのは貴重な機会だと思うので、科学の目をもって学んでいきたい。

#### 編集後記

今回の講演では青森合同巡検での研究や三内丸山遺跡について詳しく知ることができたのではないのでしょうか。特に浅虫の生物についての講演は参考になったと思います。

さて、青森合同巡検まで約1週間となりました。各々、研究に対し少しは不安もあると思いますが、今回の講演で巡検の楽しみも知ることができたと思います。より充実した巡検にするためにこの1週間しっかり準備していきましょう。